

# ふみびと

第344号  
発行所  
文通村事務局  
編集 広報部  
千葉県成田市

## 一つの岐路に 踏み出す一歩

### 重ねていく特別な時間

ある日、知人の家を訪れると駐車場には見慣れない車が。

今までは7人がゆったり乗れる、いわゆる「ファミリーカー」が駐車場に置いてあったのが、今あるのはなんと4人乗れるような小さな、だけどおしゃれな車。聞いてみると昔からずっと憧れていた車をついに買ったのだそう。  
「人生最後の車だから」と6歳を迎えた彼は、ゆったり乗れて荷物もたくさん

ん載せられる便利な車より、運転の「卒業」を前にそんな憧れを叶える車を選んだようです。

今まで残りの人生を考えて逆算した選択をしたことはほとんどないけれど、仮に「人生最後の〇〇」と考えたときにどんな選択をするだろう、と少し考えるきっかけになったような気がします。  
メジャーリーグなどで活躍した元野球選手の黒田博樹さんは「毎試合が最後だと思つて、その一



球が最後だと思つて」マウンドが上がっていたそうです。黒田さんのように行動のひとつひとつに「最後」と言う言葉を意識しながら生きていくことは難しいけれど、「最後」のように大事に選択できたとしたら、その選択のあとに踏み出す一歩はいつもより少し重みを感じられるような気がしました。  
「人生最後の車」そんな

近所の店で買い物を買って済ませ、外に出ると、雨が降っていた。そういえば、天気予報で「傘があると安心だ」と言っていたのを思い出す。そう聞いたはずなのに、あいにく傘を持っていない。  
「ちよっとそこまでだから大丈夫だろう」と油断してしまった。どうやら、すぐに止む気配はない。

仕方ないと顔をしかめて店先から足を踏み出すと、頭の上にかざした手に雨があたった。柔らかな感触だった。冷たさに濡れる不快感を予想していたのにふわふわとした優しい霧雨は心地よく、顔を上

### はなしくれ 花時雨

げると、思っていたより明るい空から落ちる細やかな雨が頬を包んだ。嬉しくなって思わずそっと微笑み、歩く先へと視線を向けると、道に植えられた木々の新緑が雨に輝いている。その姿に春の生命力を感じて、私もその活力を分けてもらいたい気持ちで、春の雨の中を歩いた。

### 風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務局宛の筒さで流し封下ま交り宛封下ま交りです。



### 次回発送日

5月の発送日は13日と27日の予定です。送りたのお手紙がある場合にはそれぞれ10日または24日までに事務局に到着するようにお送りください。

### お知らせ

#### ★感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させていただきます。方法は事務局宛でのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報保護を伏せた上でご紹介させていただきます。なお、今後文通村の村人検索に新しい機能が追加される予定です。どうぞお楽しみに。

